

平成26年度上下水道局における主要事業等について

1 公共下水道雨水幹線の整備

市街地の浸水被害の解消を図るため、近年の浸水被害状況や被害要因等を踏まえて平成25年度に策定した「公共下水道雨水整備計画改定計画」に基づき、重点5排水区等における公共下水道雨水幹線の整備を推進する。

【参考】重点5排水区

- ・ 奈坪川第1排水区（御幸ヶ原町等市道544号線沿線）
- ・ 平出工業団地関連排水区（産業通り）
- ・ 鶴田川第5排水区（宇都宮中央女子高校付近）
- ・ 鬼怒川関連排水区（岡本台ハイツ付近）
- ・ 新川第9排水区（県道雀宮停車場線沿線）

【平成26年度予算】雨水幹線整備に係る基本設計，実施設計，整備工事（45m） 105,500千円

2 上下水道施設耐震化の推進

地震等の災害時にあっても上下水道の基本機能を確保するため、平成23年度に策定した「上下水道施設耐震化基本計画」に基づき、施設の耐震性能の現状を的確に把握し、耐震化を効果的・効率的に推進する。

【参考】耐震化基本計画の概要

- ・ 水道事業においては、取組の「短期」に松田新田浄水場などの基幹施設の耐震化を位置づけ、「中期」以後で他の水道施設や管路の耐震化を推進する。
- ・ 下水道事業においては、取組の「短期」において優先度の高い処理場施設・幹線・ポンプ場の耐震化を行い、「中期」以後、同様に優先度を踏まえた耐震化を推進する。

【平成26年度予算】白沢配水場耐震化二次診断 及び 下水道管渠耐震化診断 など 35,240千円

3 水道施設危機管理対策の推進

自然災害や水質事故、また、テロ等の非常事態発生時においても、安全・安心な給水を継続するため、平成24年度に策定した「危機管理に係る水道施設整備計画」に基づき、防護設備（フェンス等）、監視警戒設備（監視カメラや侵入者検知装置）、水質監視装置（監視魚自動監視装置）の3分野の危機管理設備を計画的に整備するとともに、機械警備の範囲を拡充する。平成28年度までに施設の重要度に応じた整備を予定している。

【平成26年度予算】松田新田浄水場監視カメラ整備，高間木取水場フェンス整備など 133,682千円

4 下水汚泥消化ガス発電の推進

川田水再生センターの下水汚泥の処理過程で発生する汚泥消化ガスについては、現在、焼却炉の燃料等として利用しているが、施設の老朽化により焼却炉を停止することに伴い大量に余剰となる消化ガスについて、消化ガス発電の燃料として有効活用し、活用率の向上と新たな収益源の創出による経営基盤の強化を図る。平成27年度までに発電施設の整備完了を予定している。

【平成26年度予算】川田水再生センター下水汚泥消化ガス発電施設実施設計及び工事 47,330千円

5 アセットマネジメント・ストックマネジメントの推進

本市上下水道事業は本格的な「維持管理の時代」を迎えており、これまでに整備された上下水道施設の老朽化が進行し、大規模な更新・再構築の時期を迎えつつあることから、今後も安定した事業経営を実現するため、施設の維持管理や改築修繕を一体的に捉え、計画的に管理・更新する必要がある。

このことから、将来の施設の更新需要を把握するとともに、財政収支との整合性を図りながら、中長期的な視点に立った更新を計画的に実行し、持続可能な上下水道事業経営を実現するため、水道事業におけるアセットマネジメント、下水道事業におけるストックマネジメントを推進する。

【平成26年度予算】 基本計画の策定及び支援システムの構築 33,729千円

6 グリーンタウン地域下水処理施設管渠の改修

河内地域のグリーンタウンについては、民間開発に伴い整備された下水処理施設が旧河内町に移管されたが、供用開始から40年近くが経過し、老朽化も著しいことから、平成29年度より公共下水道への接続が予定されている。この接続に向けて、下水道施設としての適正な機能を確保するため、平成25年度に策定した「グリーンタウン地域下水処理施設管渠改築・修繕計画」に基づき、平成26年度より3か年かけて管渠の改築・修繕を実施する。

【平成26年度予算】 実施設計及び改築・修繕工事 219,705千円